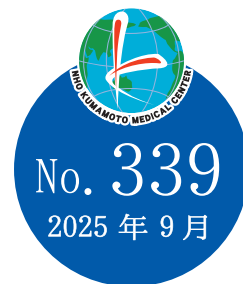


国立病院機構熊本医療センター

くまびょうNEWS



未来ある子どもたちの
健やかな成長を医療で支えます



小児科医師、看護師と研修医の先生方

特集

小児科のご紹介

- VOICE
- 医学シリーズ 血液内科
- くまびょう TOPICS
- 研修医レポート
- 研修のご案内
- 外来担当医名簿

患者さまをお待たせしないためにご紹介は、
外来紹介予約センターをご利用ください。



熊本医療センター
地域医療連携センター長
菊川 浩明



096-353-6565
096-353-6566

受付 平日 8:30 ~ 17:00

国立病院機構熊本医療センター 外来紹介予約センター

FAX 096-353-6563

独立行政法人国立病院機構
熊本医療センター
National Hospital Organization Kumamoto Medical Center



熊本医療センター 検索 ホームページ QR コード▲

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 政策医療の推進
2. 救急医療とがん診療の推進
3. 開放型病院による医療連携の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 健全経営

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



小児科は、未来を担う子どもたちの健やかな成長を支えるため、乳児から思春期までの幅広い小児疾患を診療しています。5名の小児科専門医がそれぞれの専門性を活かし、最新の知見を取り入れながら、良質な医療の提供を目指しています。毎朝のカンファレンスでは、入院患者さま一人ひとりの状態をスタッフ全員で把握し、最善の検査、治療方針を多角的な視点から検討しています。

当科の特徴は、一般小児疾患の診療のほか、小児血液疾患、凝固異常症（血友病など）、悪性腫瘍、アレルギー疾患、感染症、免疫異常症などの専門診療を展開している点です。血液疾患や小児がんではJCCG（日本小児がん研究グループ）の治療プロトコルに則った最新治療を実践し、大学病院との密な連携も強みです。また当科は小児血友病の診療拠点施設であり、関係診療科とも連携して小児血友病の診療にあたっています。

当院は熊本県のアレルギー疾患医療拠点連携病院の一つです。当科では年間500件以上の入院食物経口負荷試験を実施し、食物アレルギーの安全

な診断と治療に努めています。難治性アトピー性皮膚炎や気管支喘息に対しては、IL-4/13受容体モノクローナル抗体（デュピルマブ）、抗ヒトIL-31受容体A抗体（ネモリズマブ）、JAK1/JAK2阻害薬（バリシチニブ）などの生物学的製剤導入が有効で、患者さまの治療選択肢を大幅に拡げました。

免疫異常症の診療では、新生児免疫不全スクリーニングで陽性となった新生児を受け入れて、院内フローサイトメトリー等を用いた精密検査、早期診断・治療に取り組んでいます。

日々の診療に加え、入院中の子どもたちの心のケアも大切な取り組みです。ハロウィンやクリスマスにはスタッフや研修医、看護学生も交えてパレードを企画するなど、入院生活が少しでも楽しくなる工夫を凝らしています。

今後も地域の医療機関の皆様との連携を一層強化し、子どもとご家族を支えるために、スタッフ一同尽力してまいります。中学生以下の小児内科系疾患でお困りの際は、どうぞお気軽にご相談ください。



ハロウィン



クリスマス



北くまもと在宅支援 クリニック

院長 菅村 公一



◆貴院のアピールをお願いします

当院は、2025年6月より、桜十字グループが、北区に設けた訪問診療の拠点になります。診療については、グループに関係なく、地域の医療機関や訪問看護ステーション、介護施設を含むコミュニティに加えていただき、我々に出来ることを、少しずつ行っていければと考えております。休日夜間の緊急対応については、これまで在籍していた、くまもと在宅支援病院の訪問診療部と連携をとりながら、体制を維持していく形です。

◆先生の趣味・お勧めスポットを教えてください

最近は、焚火をしにデイキャンプにでかけます。拙いながら、手斧で薪割りして、焚いた火を見つめているだけなのですが、不思議と癒されます。短時間で設営、撤収となるので、慌ただしいところもあるのですが、少ない装備で気軽に楽しめるところが気に入っています。市内から30-40分で行けるキャンプ場（くべる、高遊原プレーンキャンパーズ等）が、移動時間も少なくてすみますので、お勧めです。

◆当院へのご要望をお聞かせ下さい

在宅医療の役割として、看取りや終末期対応以外にも、再入院を未然に防ぐことや、緊急での入院や治療が不要な程度であれば、在宅で対応するのですが、何分、行なえる治療や検査が限られます。そのため、患者さまの状態次第では、貴院へ救急依頼することも少なからずありますので、今後も、変わらぬご支援をよろしくお願い致します。



【診療科目】

内科・循環器内科・緩和ケア科

【診療受付時間】

8:30～12:30 / 13:00～17:30

【休診日】

土曜・日曜・祝祭日

【住所】

〒860-0085 熊本市北区高平2丁目24-13-101

【TEL】

096-288-2370

【FAX】

096-288-2380



最近のトピックス

造血幹細胞移植について

国立病院機構熊本医療センター
血液内科部長

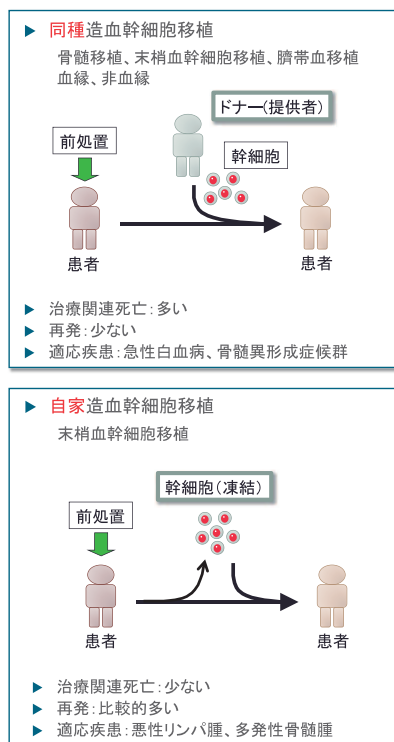
かわきた としろう
河北 敏郎



造血幹細胞移植とは、血球（白血球、赤血球、血小板）の元となる「造血幹細胞」を用いた治療法で、患者さまご自身の幹細胞を移植する「自家移植」と他者の幹細胞を移植する「同種移植」に大別されます。急性白血病や骨髄異形成症候群などに対しては同種移植が、悪性リンパ腫や多発性骨髄腫に対しては自家移植が選択されます。

移植では、まず「前処置」と呼ばれる大量の抗がん剤投与や放射線照射を行います。前処置は強力なため血液腫瘍を根絶できる可能性が高まりますが、同時に正常な造血幹細胞も大きなダメージを受けるため血球が回復しなくなります。そこに健常な造血幹細胞を輸注することによって造血を回復させます（図1）。

図1 造血幹細胞移植の種類



移植治療のメリットとデメリットを挙げます。

<メリット(移植の有用性)>

- ① 根治が可能：前処置で腫瘍細胞を根絶して正常な造血幹細胞に置き換えますので、移植以外では治らない難治性腫瘍でも根治できる可能性があります。
- ② 生存率が向上：急性白血病はなどの血液腫瘍は未だに命に直結する病気であり、移植が成功すれば再発のリスクを減らして患者さまの生存率が向上します。
- ③ 幅広い適応症：白血病や悪性リンパ腫だけでなく、再生不良性貧血などさまざまな病気が対象となり、患者さまに治療選択肢の一つとしてご提案できます。

<デメリット(移植のリスクと問題点)>

- ① 合併症のリスク：前処置が強力なため、吐き気や脱毛、感染症が重症化することがあります。また、同種移植ではドナーから移植された細胞が患者さまの体を攻撃する「移植片対宿主病(GVHD)」が問題となります。これらの合併症のため、現在はおおむね70歳が移植の上限年齢です。
- ② 身体的・精神的な負担：長期間の入院や治療を要するため、患者さまの体力や精神面に大きな負担がかかります。退院後も体力や免疫力が低下した状態が続くため、ご家族のサポートも必要です。
- ③ ドナーの確保：同種移植では、ドナーと患者さまの白血球の型(「HLA」)が完全に、あるいは一部適合している必要があり、採取の際にはドナーの負担もあります。

造血幹細胞移植は、重大な病気を治す大きな希望となる治療法です。熊本医療センターは全国でも有数の同種移植施設であり、現在でも熊本県内の約3分の2程度の同種移植を実施しています。血液内科医師、造血細胞移植コーディネーター、他診療科の医師、歯科医師、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士などが、チームとして血液疾患と闘う患者さまやその家族を支えるべく日々奮闘しています。患者さまが健康を取り戻し、日常生活を再び楽しめるようになることを祈りながら…。

くまびょう TOPICS

7/24 (木) | 市民公開講座

【筆者】腎臓内科部長：梶原 健吾

7月24日腎臓病教室を市民公開講座として行いました。今回は、初めて熊本市との共催で行い、色々と熊本市のご支援をいただくことができました。当日の参加者は78人でとても多くの方々が参加されました。内容として、医師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、看護師からレクチャーを行い、そのあと皆さんから質問をお受けしました。

今後とも適宜、開催を予定してまいります。いろいろとご支援くださった方々に御礼申し上げます。

【場所】研修センターホール



8/2 (土) | 火の国まつり

事

【筆者】管理課庶務係：村上 鈴奈

本年も火の国まつりに参加させていただきました。

例年通り、プラカードを持ってみなさんと一緒に踊る予定でしたが、仙骨を骨折してしまい、今回はバックアップとしての参加に徹することとなりました。

当日は非常に暑い夜でしたが、沿道から見守る中で、一生懸命に、そして笑顔で踊る参加者の皆さんの姿がとても輝いて見えました。

幅広い年代の職員が一丸となって一つの目標に向かって取り組むことで、部門を越えた繋がりが生まれたように感じております。

今後も各部門間でのコミュニケーションをさらに活発にし、地域のみなさまからより一層信頼していただける病院づくりに微力ながら貢献してまいりたいと存じます。

最後に、今回の運営を担ってくれた後輩たちについて少し触れさせていただきます。

数年前に入職した職員たちが中心となり、見事に運営を舵取りし、大成功へと導いてくれました。

この夏の素晴らしい思い出を紡いしてくれたのは、まぎれもなく彼らの尽力によるものだと思います。

彼らを含めた素晴らしい同僚に恵まれて、毎日を過ごすことができ私はとても幸せ者です。

今後とも、病院の更なる発展に寄与できますよう、誠心誠意努めてまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

【場所】熊本市中心市街地一帯



7/27 (日) | 看護学校オープンキャンパス

校

【筆者】熊本医療センター附属看護学校2年：斉藤 瑠那

今年のオープンキャンパスは「見て・聞いて・触れて知る看護の世界!」というテーマで開催しました。1日を通して高校生85名、保護者37名と県外の方も含めて数多くの参加がありました。企画内容は学校紹介、在校生との交流、学校・病院案内、フィジカルアセスメント体験、新生児(モデル)とのふれあい体験、模擬授業(バイタルサイン測定)でした。私はフィジカルアセスメント体験を担当しました。ここでは、シュミレーター「シナリオ」と「フィジコ」を使用して心音、呼吸音、腸音の正常と異常音の違いを聴き分けることや、蘇生練習人形を使って胸骨圧迫やアンビューの体験をしました。高校生は正常音と異常音を聴き分けるのが難しく、胸骨圧迫が固くて難しいという反応もありました。初めての体験ばかりで戸惑う様子も見られましたが、シュミレーターに触れ、「おもしろい」と目を輝かせる様子もあり、楽しんで頂けて良かったと思いました。

【場所】熊本医療センター附属看護学校



研修医レポート

Medical Intern Report



臨床研修医

おおはま ちあき
大浜 千明



こんにちは。研修医一年目の大浜千明と申します。熊本大学を卒業し、4月より熊本医療センターにて初期臨床研修をさせていただいております。まだまだ至らない点も多く、先生方やスタッフの皆様にご迷惑をおかけしながらも、徐々に環境に慣れつつ、充実した研修生活を送っております。

私は腎臓内科から研修が始まりました。はじめはカルテの使い方やオーダーの仕方も分からず戸惑う毎日でしたが、先生方やスタッフの皆様により丁寧な日々の業務の基礎を教えていただきました。

腎臓内科では、実習とは違って患者さまの診察から体液管理、電解質管理などを学ぶことができ、腎機能の悪い患者さまにおいては注意すべき点も多く難しさを感じましたが、同時に実臨床の面白さを実感しました。また、手技についてもPTAやシャント作成、腎生検など、最初は手とり足とり教えていただきながらでしたが、徐々にできることが増え、楽しく充実した毎日を過ごすことができました。

6月からは麻酔科での研修が始まり、病棟とは違った手術室の緊張感や刻一刻と変化する全身状態の管理の難しさや面白さを実感しました。ルート確保や気管挿管、ルンバルなど熱心に指導していただき、なかなか上手いできないこともありましたが、患者さま一人一人へのアプローチを自分なりに考えながら経験を積み、少しずつですが成長を感じられた研修期間でした。

未熟さゆえご迷惑をおかけすることが多々あるかと思いますが、自分が成長できるのは皆様のお陰であることを忘れず、医療者としてお役に立てるよう精進して参ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

臨床研修医

ながた りく
永田 陸



こんにちは。研修医1年目の永田陸と申します。熊本大学医学部を卒業し、4月より熊本医療センターにて初期臨床研修をさせていただいています。

初期研修医としての生活が始まり、あっという間に3か月が経過しました。神経内科と消化器内科をローテートし、週1回救急外来にも携わる中で、日々自分の未熟さを痛感しながらも多くの学びを得る毎日です。

神経内科では、脳梗塞やけいれん重積といった緊急性の高い症例を数多く経験しました。神経診察の大切さや画像所見の読解力の重要性を痛感しながらも、その難しさにも直面しました。また、腰椎

穿刺やPICC挿入といった手技にも挑戦する機会をいただきました。最初はうまくいかず悩むこともありましたが、熱心なご指導のもとで少しずつ上達し、成功の喜びを感じることができました。

消化器内科では、週2回の腹部エコー業務に加え、内視鏡処置の介助を経験しました。腹痛や下血などの多彩な症候に対して迅速にアプローチし、内科的な管理から外科的処置までの幅広い診療業務に携わることのおもしろさと大変さを研修を通して学びました。

また、週1回の救急外来では、様々な主訴の患者さまに対応し、初療の判断や検査の選択、診断の組み立ての力を養っています。自ら問診・身体診察・オーダーを行うなかで、知識不足を痛感することもあり、毎日が貴重な学びとなっています。

この3か月で、医師としての責任の重さと、患者さま一人ひとりと真摯に向き合うことの大切さを実感しました。先生方や先輩方、スタッフの方々に支えていただきながら、充実した研修生活を送ることができています。ご迷惑をおかけすることもまだまだ多くあると思いますが、日々精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

臨床研修医

たぐち ともき
田口 智喜



こんにちは。研修医一年目の田口智喜と申します。鹿児島大学を卒業し、本年度の4月より熊本医療センターにて初期臨床研修医をさせていただいております。研修医の業務に関して、何もわからない状態から始まりあっという間の4か月でした。先生方や病院のスタッフの皆様を支えられ、とても充実した研修生活を送っております。

私は、糖尿病内分泌内科から研修をスタートしました。糖尿病や内分泌疾患の管理は慢性的な経過を追うことが多く、患者さま一人一人の生活背景や自己管理能力を理解することが重要だと感じまし

た。インスリン治療や薬物調整の難しさを実感し、患者さまとのコミュニケーションが治療効果に直結することも学びました。また、最初に研修を行った科ということもあり、電子カルテの使い方や病院の基本的なルールなども学ばせていただきました。

次に研修を行った消化器外科では、主に手術の見学を行いました。学生の時とは異なり縫合や、腹腔鏡下手術のカメラを持たせていただくなど、手術の一員として参加させていただきました。縫合は術前に自分で練習し、先生にコツを教わることで、研修開始時点よりも成長することができました。カメラ操作は、次にどこをどのような角度で映せばよいか考えながら行うことが楽しくもあり、難しくもありました。

この度の各科での実習を通じて、多くの貴重な経験を積みさせていただきました。日々ご指導くださる先生方や、温かく支えてくださるスタッフの皆様のおかげで、安心して学びに集中できていることに心より感謝申し上げます。まだまだ未熟ですが、一步一步成長していきたいと考えております。2年間どうぞよろしくお願いいたします。

2025 年 9 月 研修のご案内

二の丸モーニングセミナー

日時▶ 9月4・11・18・25日（木）8：30～9：00
場所▶ 国立病院機構熊本医療センター研修ホール

第297回 熊本県滅菌消毒法講座

日時▶ 9月6日（土）13：00～16：30
場所▶ 国立病院機構熊本医療センター研修ホール

第154回 クリティカルパス研究会

日時▶ 9月10日（水）17：30～18：30
場所▶ 国立病院機構熊本医療センター研修ホール

第84回 診断と治療－最新の基礎公開講座－ 〔日本医師会生涯教育講座2.5単位認定〕

日時▶ 9月13日（土）15：00～17：30
場所▶ 国立病院機構熊本医療センター研修ホール

「CKD」

座長 上村内科クリニック

石塚 俊紀 先生

（1）「高脂血症と腎障害」

国立病院機構熊本医療センター血液浄化センター長

中村 朋文

（2）「腎障害とカリウム」

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長

梶原 健吾

（3）「熊本大学腎臓内科から見た CKD」

熊本大学病院腎臓内科助教

水本 輝彦 先生

第13回 すべてのナースのための エンド・オブ・ライフ・ケア －ELNEC in KMC－（1日目）

日時▶ 9月20日（土）8：50～17：10
場所▶ 国立病院機構熊本医療センター研修ホール

第13回 すべてのナースのための エンド・オブ・ライフ・ケア －ELNEC in KMC－（2日目）

日時▶ 9月21日（日）8：30～16：40
場所▶ 国立病院機構熊本医療センター研修ホール

第212回 救急症例検討会 特別講演

日時▶ 9月24日（水）18：00～
場所▶ 国立病院機構熊本医療センター研修ホール

「熊本県の病院前救急医療の現状について ～救急隊と病院との連携強化に向けて～」

熊本大学病院救急部教授

入江 弘基 先生

市 民 公 開 講 座

日時▶ 9月25日（木）14：00～
場所▶ 国立病院機構熊本医療センター研修ホール

「おなかの病気のはなし」

国立病院機構熊本医療センター外科副部長

中川 茂樹

（課外授業）15時～

「おなかに優しい食事ってな～に？～夏バテを克服しよう～」

国立病院機構熊本医療センター管理栄養士

松熊 真由

熊 本 県 臨 床 検 査 技 師 会 ・ 病 理 細 胞 部 門

日時▶ 9月25日（木）18：30～20：00
場所▶ 国立病院機構熊本医療センター研修ホール

小児科火曜会【WEB 配信あり】

日時▶ 9月30日（火）19：00～21：00
場所▶ 国立病院機構熊本医療センター研修室 1

研修へのお問い合わせはこちら
国立病院機構熊本医療センター
地域医療研修センター（096）353-3515（直通）

研修センター
QRコード▶



患者さまをお待たせしないために

ご紹介は、外来紹介予約センター

受付 平日 8:30 ~ 17:00

をどうぞご利用ください。

096-353-6565
096-353-6566

FAX 096-353-6563



熊本医療センター
地域医療連携センター長

菊川 浩明

令和7年9月外来担当医名簿

国立病院機構熊本医療センター



診療科			月		火		水		木		金		
総合医療センター (内科)	総合診療		辻 隆宏 國友 耕太郎 吉村 文孝 久保崎 順子 川口 湧水		辻 隆宏 國友 耕太郎 吉村 文孝 久保崎 順子 川口 湧水		辻 隆宏 國友 耕太郎 吉村 文孝 久保崎 順子 川口 湧水		辻 隆宏 國友 耕太郎 吉村 文孝 久保崎 順子 川口 湧水		辻 隆宏 國友 耕太郎 吉村 文孝 久保崎 順子 川口 湧水		
	血液		河北 敏郎 樋口 悠介		原田 奈穂子 田口 詢		河北 敏郎 渡辺 美穂		日高 道弘 河北 敏郎		原田 奈穂子 窪田 晃		
	糖尿病・内分泌		西川 武志 (午前新患) 西田 周平 (午前再診)		西田 周平 (午前新患) 西川 武志 (午前再診)		西川 武志 (午前新患) 井手口 拓弥 (午前再診)		渡邊 拓郎 (午前新患) 功一 (午前再診)		井手口 拓弥 (午前新患) 渡邊 拓郎 (午前再診)		
	呼吸器内科		熊大医師 (院内コンサルト)										
	感染症内科												
	腎センター	外来	梶原 健吾		吉井 隆一		中村 朋文		畑中 利暉		小野 宏 梶原 健吾 中村 朋文		
		その他	C K D 外来		C K D 外来		C K D 外来				P D 外来 療法選択外来		
腫瘍内科		境 健爾		境 健爾 榮 達智		境 健爾 榮 達智		境 健爾 (2・4 週)		境 健爾 (1・3 週) 榮 達智			
消化器病センター (消化器内科)	診察	1 診	楠本 周平		杉 和洋		大賀 貴博		杉 和洋		立山 雅邦		
		2 診	松山 太一		立山 雅邦		花園 ゆりか		松山 太一		花園 ゆりか		
		3 診	源 和也		赤木 由理恵		富口 純		楠本 周平		富口 純		
		4 診					杉 和洋						
	内視鏡	午前 (～13 時)	立山 雅邦 富口 純 花園 ゆりか 大賀 貴博 赤木 由理恵		楠本 周平 花園 ゆりか 源 和也 松山 太一		松山 太一 楠本 周平 赤木 由理恵 大賀 貴博 源 和也		立山 雅邦 富口 純 源 和也 大賀 貴博 花園 ゆりか		松山 太一 楠本 周平 赤木 由理恵 岡本 有紀子 大賀 貴博		
			午後 (13 時～)	立山 雅邦 花園 ゆりか 赤木 由理恵 大賀 貴博 富口 純		松山 太一 富口 純 楠本 周平 花園 ゆりか 源 和也 大賀 貴博		立山 雅邦 松山 太一 赤木 由理恵 源 和也 楠本 周平		立山 雅邦 富口 純 花園 ゆりか 源 和也 大賀 貴博 赤木 由理恵 岡本 有紀子 赤木 由理恵		松山 太一 楠本 周平 赤木 由理恵 大賀 貴博 源 和也	
		超音波室		杉 和洋		富口 純 大賀 貴博		立山 雅邦 杉 和洋		岡本 有紀子 赤木 由理恵		杉 和洋 源 和也	
		心臓血管センター (循環器内科)	新患	木村 優一 山村 智		有馬 義博 尾崎 凖志郎 (隔週)		片山 哲治		田山 信至		松原 純一	
	再来		田山 信至		松原 純一		山村 智		有馬 義博 尾崎 凖志郎 白尾 友宏		片山 哲治 木村 優一		
	(心臓血管外科)		手術日		岡本 健		田中 睦郎 (再診)		手術日		岡本 健		
精神・神経科		初めての方 2 回目からの方											
小児科	診察		水上 智之		興梠 雅彦		岡田 拓巳		水上 智之		渡邊 優		
	免疫		水上 智之				水上 智之		水上 智之				
	血液				興梠 雅彦 右田 昌宏						右田 昌宏		
	アレルギー				渡邊 優 (予約のみ)				渡邊 優 (予約のみ)		渡邊 優 (予約のみ)		
外科		中川 茂樹 日高 香織 (2・4 週)		水元 孝郎 松本 克孝 高津 研翔		岩上 志朗		宮成 信友 黒木 秀幸		久保田 竜生			
脳神経センター (脳神経外科) (脳神経内科)			中川 隆志 大塚 忠弘		手術日		堀 遼太 大塚 忠弘		中川 隆志 伊東山 剛		舎川 健史 大塚 忠弘		
	1 診		幸崎 弥之助		田北 智裕		高松 孝太郎		小阪 崇幸		津川 貴博		
	2 診		高松 孝太郎		小阪 崇幸		津川 貴博		幸崎 弥之助		田北 智裕		
整形外科	午前	1 診	満瀬 葉介 (新患)		手術日		前田 智 (新患)		手術日		興梠 航 (新患)		
		2 診	福元 哲也 (新患)			福元 哲也 (新患)		中馬 東彦 (新患)					
		3 診	福田 和昭 (新患)			福田 和昭 (新患)		中瀬 啓太 (新患)					
	午後	1 診	興梠 航 (再診)			浅沼 涼平 (再診)		満瀬 葉介 (再診)					
		2 診	福元 哲也 (再診)			中瀬 啓太 (再診)		中馬 東彦 (再診)					
		3 診	福田 和昭 (再診)										
泌尿器科		前田 喜寛 担当医		菊川 浩明 鮫島 智洋 神尾 琢克伸		担当医 (手術日) (紹介のみ)		前田 喜寛 大輔 村上 米敏 栄敏		菊川 浩明 担当医			
産婦人科		高木 みか 瀬尾 優太郎		山本 直 坪木 純子 米田 征義		手術日		高木 坪木 瀬尾 純子 米田 優太郎		山本 直 米田 征義			
感覚器センター (眼科)		渡邊 隆弘 中原 敦子 高田 遼		(手術日)		渡邊 隆弘 敦子 遼		(手術日)		渡邊 隆弘 敦子 遼			
感覚器センター (耳鼻咽喉科)		手術日		上村 尚樹		手術日		上村 尚樹		上村 尚樹			
感覚器センター (皮膚科)	初診 (紹介あり)	山下 淳二		牧野 公治		稲葉 かずは		担当医 (手術日)		大溝 耕一郎			
	再診 (初診その他)	稲葉 かずは 山下 淳二		大溝 耕一郎 牧野 公治		山下 淳二 稲葉 かずは			牧野 公治 大溝 耕一郎				
形成外科		(午 後) 大島 秀男 (リンパ浮腫外来) 蓮田 敏也 室田 啓介 植田 遼子		(午 後) 担当医 (紹介のみ)		手術日		(午 後) 大島 秀男 敏也 啓介 室田 植田 遼子		(午 後) 大島 秀男 東野 哲志 蓮田 敏也			
放射線科		治療 (予約制) 画像診断	富高 悦司、大塚 崇裕 根岸 孝典、浅尾 千秋、伊藤 加奈子、井上 聖二郎、大塚 崇裕、吉松 俊治										
麻酔科		宮崎 直樹 (術前診察 / 麻酔相談)								(午前のみ) 瀧 賢一郎 (麻酔相談)			
緩和ケア外来		境 健爾		境 健爾		境 健爾		境 健爾 (2・4 週)		境 健爾 (1・3 週)			
歯科 口腔外科		森 久美子 谷口 広祐 東 真有香 上田 夏野		中島 健 久美子 広祐 谷口 真有香 上田 夏野		中島 健 谷口 広祐 東 真有香 上田 夏野		中島 健 谷口 広祐 東 真有香 上田 夏野		中島 健 谷口 広祐 東 真有香 上田 夏野			
救命救急センター		櫻井 聖大 洪沢 崇行 清水 千華子 伊東山 剛 橋本 聡 久保崎 順子 吉村 文孝 深木 浩之 大本 寛之 松本 雪菜 笹尾 駿介 山本 亮		櫻井 聖大 洪沢 崇行 清水 千華子 伊東山 剛 橋本 聡 耕太郎 湧水 川口 湧水 大本 寛之 雪菜 駿介 山本 亮		櫻井 聖大 洪沢 崇行 清水 千華子 伊東山 剛 橋本 聡 聡 浩之 木村 文彦 深木 寛之 大本 雪菜 松本 駿介 山本 亮		櫻井 聖大 洪沢 崇行 清水 千華子 伊東山 剛 橋本 聡 克孝 浩之 橋本 浩之 宮内 大介 深木 寛之 大本 雪菜 松本 駿介 山本 亮		櫻井 聖大 洪沢 崇行 清水 千華子 伊東山 剛 橋本 聡 聡 浩之 橋本 浩之 宮内 大介 深木 寛之 大本 雪菜 松本 駿介 山本 亮			
看護外来	ストーマ			認定看護師		認定看護師		認定看護師		認定看護師			
	がん看護	認定看護師		認定看護師		認定看護師		認定看護師		認定看護師			
移植後フォローアップ		担当看護師		担当看護師		担当看護師		担当看護師		担当看護師			

(注) 担当医は都合により変更することがあります。 手術日はお待たせする場合もございますので、御了承ください。

R7/9/1